

－好きな星を 見つけませんか－

# スター・ウィーク

～星空に親しむ週間～

8月1日～7日

イベントの情報があれば、このスペースをご利用下さい

スター・ウィークのテーマソングは「COSMOS」  
星空を歌う音楽ユニット・アクアマリンの、夏の星空によく似合う素敵な歌。  
詳しくはアクアマリンのサイトへどうぞ！ <http://aqumari.com/>

スター・ウィーク掲示板「今、星をみています」  
スター・ウィークの7日間、どこかでみなさんと同じように星空を  
星空を見上げている人が、きっといるはず。そんな「誰か」と  
つながってみませんか？



施設・団体名を入れて  
イベントなどでお配り下さい

((C)opyright 1995-2019, StarWeek Project)

スター・ウィークとは…

バード・ウィーク(愛鳥週間)があるのなら、  
「スター・ウィーク」があってもいいな…  
子どもも大人も、だれもが気軽に星空を  
見上げてほしい、そんな想いから始まった  
星空に親しむ週間です。



主催:スター・ウィーク実行委員会  
後援:自然科学研究機構 国立天文台・天文学振興財団  
協力:PAONavi準備委員会、日本プラネタリウム協議会  
日本公開天文台協会、星空公団  
<http://www.starweek.jp/>  
～2019年版～

## ★自分の目でみつけてみよう★

### ☆織姫星・彦星(おりひめぼし・ひこぼし)

頭の上を見上げると、明るい星が3つ、ベガとデネブとアルタイルで「夏の大三角」と呼ばれている、大きな三角形ができます。その中の「こと座のベガ」が織姫星、「わし座のアルタイル」が彦星です。空の暗いところなら、七夕のお話のとおりに、2つの星の間に天の川が見えます。

### ☆天の川(あまのがわ)

月明かりの少ないころ、街をはなれて空の暗いところに行くと、天の川が見えることがあります。ほんやりとした、細長い雲のように見えますが、その正体は、たくさんの星の集まりです。

### ☆流れ星(ながれぼし)

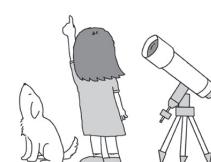
毎年8月12-13日ごろは、流れ星がよく見られます。「ペルセウス座流星群(りゅうせいぐん)」と呼ばれ、明け方ほどよく見えます。2019年はほぼ満月が一晩中夜空を照らすので、あまり条件は良くないので、ゆったりと待ってみて下さい。

### ～惑星を見よう！～

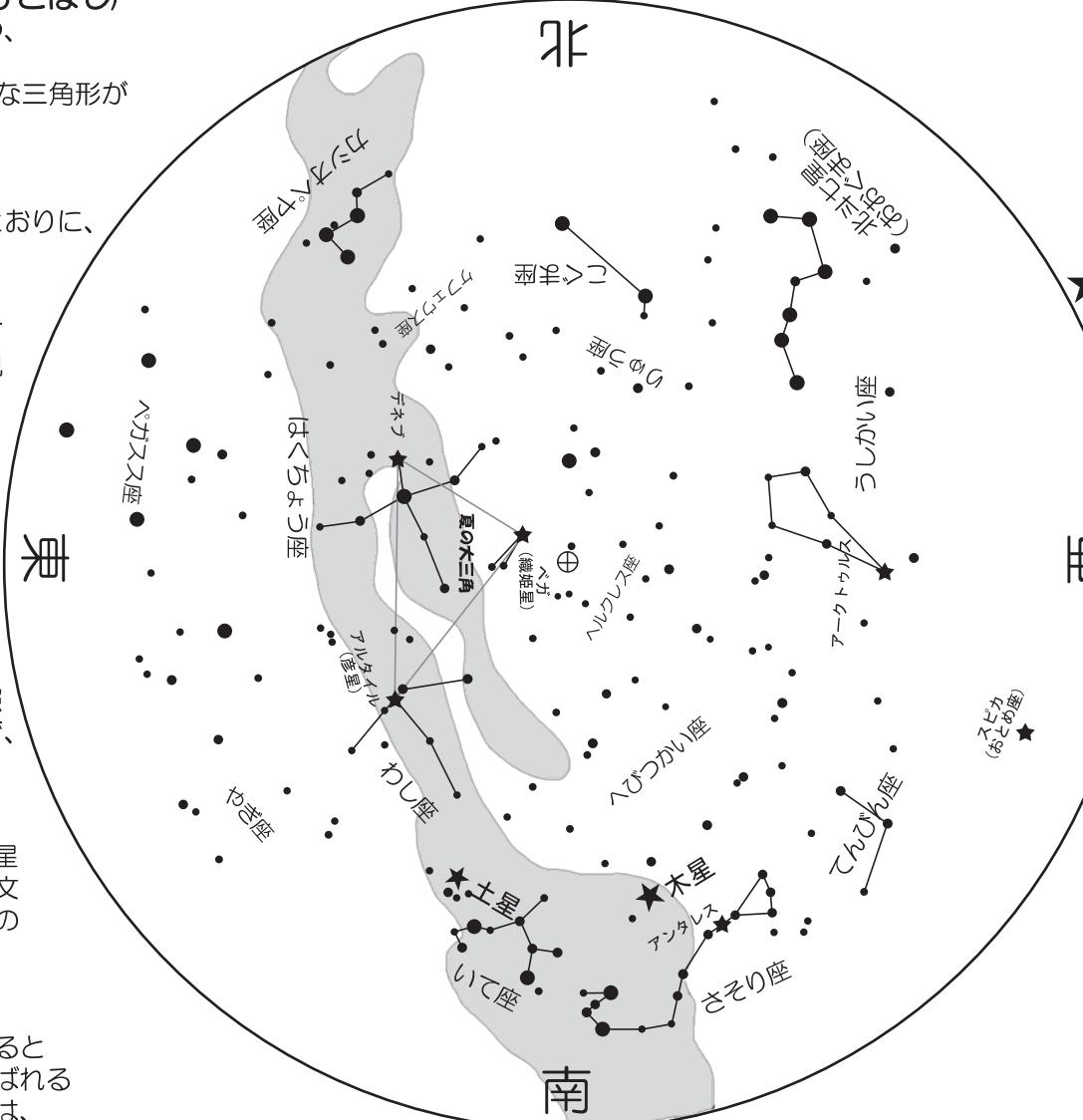
2019年の夏休みの夜空には、木星と土星の2惑星が見えています。各地の公開天文台や観望会で、ぜひ木星の縞模様や土星の環をご覧になってみてください。

### ～二重星(にじゅうせい)～

目で見ると1つの星なのに、望遠鏡で見ると2つ星が見える、そんな「二重星」と呼ばれる星が、たくさんあります。特におすすめは、はくちょう座のくちばしの所にある「アルビレオ」という星です。青と黄色の星が見えます。



# 8月の星空



★この図のみかた★  
⊕印のついているところが頭の真上です。  
見たい方角を向いて、その見たい方角の字が  
正しく見えるように手前に回して  
空と見くらべてみてください。

## ★星を見に行く時の持ち物★

### ☆星の場所を知るために

→このリーフレットや星座早見盤

### ☆夜は暗い！足元は大丈夫？→懐中電灯 (赤いセロファンで光を弱くしてね)

### ☆寝転がって見よう→マット (安全なところに寝転がってね)

### ☆夏でも夜は寒い→あたたかい服

### ☆その他→虫よけ、時計、などなど

(夜でかける時は、必ずおとなの人といっしょに！)

## ★伝統的七夕を楽しもう★

7月7日の七夕は梅雨のくもり空で、なかなか星が見えませんね。

実は、江戸時代まで使われていたカレンダーは、現在のものと仕組みがちがい、日付も1ヶ月ほどずれがあります。

昔のカレンダーでの7月7日(伝統的七夕)は、今年は8月7日。月遅の七夕と同じ日付です。部屋や身の回りの明かりを消して、普段より暗くなった夜空で、昔の人たちの気持ちになって、七夕を楽しんでみませんか？

## ★25回目のスター・ウィーク★

1995年からはじめたスター・ウィークは今年で25回目になりました。

みなさんが気軽に星空を見上げるきっかけになっていたら、とてもうれしいです。



2019年のキャッチコピー  
**「好きな星を見つけませんか」**

静岡県の藤田大貴さんの作品です

空を見上げた時に、自分の好きな星があるって素敵じゃありませんか。

それがスター・ウィークで見つかったらもっと素敵です。